

30周年記念カンファレンス特別アピール

社団法人日本マーケティング・リサーチ協会
会長 田下 憲雄

今年、JMRA は 30 周年を迎え、本日このように盛大なカンファレンスを開催することができました。本日お集まりいただきました皆様方には厚くお礼申し上げます。また、30 年の年月の中で、マーケティング・リサーチ業界を支え、育てていただきましたお客様方、諸先輩方、皆様のお蔭でマーケティング・リサーチ業界の現在の姿があると、改めて感謝申し上げる次第です。ありがとうございました。

さて、本年は 30 周年ということで JMRA にとって節目の年ですが、これは単に数字の切りがいいというだけではなく、我々はまさに転換点にいる、そういう事態に遭遇している、そのように私は認識しております。

遭遇している事態のひとつは、JMRA の正会員社 1 社が、ある政府系機関から受託した定点観測調査において、不適切な調査の実施があったと報道がなされた事件であります。事件発覚後、JMRA は事情聴取を行いました。明らかに「調査の倫理性と科学性」を裏切る行為であり、マーケティング・リサーチ綱領に違反していると認定しました。JMRA としては既に「無期限資格停止」処分を決め、断固として許さないという立場を明確にしました。

しかしながらこの事件は、市場調査がおかれた時代性を映す鏡でもあるとも考えます。在宅率の変化などを考えてもお分かりのように、フィールド環境は激変しています。この 30 年で訪問面接調査の期待回収率は毎年少しずつ低減していったはず。それにも関わらず、金科玉条のごとく前年踏襲を繰り返し、回収率目標もそのまま、調査仕様もそのままとすれば、無理が出るのは当然です。

市場調査業界には環境の変化に対して「臆病に」対応するところがあります。それはある意味、調査という仕事が背負っている宿命かもしれません。「Research は Re-Search である」。つまり繰り返し同じ方法で調べることによって市場の変化を知ることが市場調査の役割であるがゆえに、「臆病に」対応する姿勢が身についてしまっているところがあります。しかし「臆病な対応」が 30 年も積み重なれば、原点からはるかに遠ざかり、原点に回帰することは不可能な状況が生まれてきます。

今回の件はひとつの「事態」に過ぎず、厳しくなる一方のフィールド環境、個人情報保護の要請を背景とした住民基本台帳閲覧への制限への動き、またインターネット調査という新手法の妥当性の問いかけなど、市場調査業界は否応なく変化への対応を求められています。今までのような臆病な対応では、マーケティング・リサーチ業界の今後の発展もなければ、市場調査の原点である「調査の倫理性と科学性」の保証もないと考えなければいけません。「変えてはいけないこと」と「変えるべきこと」をしっかりと見据え、変化に対し勇気をもって対応していける業界であり、JMRA でありたいと思います。

もうひとつ、本日のカンファレンスは、JMRA にとって「内から外へ」情報発信の方向を転換するターニング・ポイントであると位置づけております。今年度の JMRA の活動方針は「情報発信のできる協会活動の実現—リサーチの信頼性とリサーチャーのプレゼンス向上を目指して」とおきました。今までの内向きの姿勢を見直し、30 周年を期して、業界内部だけではなく、私たちのお客さまに対

して、また調査に協力していただく対象者に対して、そして海外、特に中国、韓国などのアジア地域に向けて情報発信ができる協会活動を実現するよう努力していきたいと思います。

特に今後発信に注力すべき内容は、マーケティング・リサーチに関する最新の理論と技術の研究です。そのためにこのカンファレンスをアニュアル・カンファレンスとして定例化し、協会からの情報発信のための最大の場として位置づけていきたいと思います。

JMRA の調査研究部会では、日本で最前線の調査理論や調査技術の追究を目指し、既に 3 つのテーマを設定し、研究をスタートさせております。来年のカンファレンスでは JMRA 調査研究部会報告にも期待していただきたいと思います。

また、会員社各位からの研究開発成果発表も今年度より拡大して実施したいと思います。会員社の皆様においては、アニュアル・カンファレンスでの発表を目指して、今から理論と技術の開発に取り組んでいただきたいと思います。特にリサーチ・ユーザー(お客様)の立場の方々との共同研究発表を期待します。

アニュアル・カンファレンスで日本最高水準の発表がなされるとすれば、自然とカンファレンスはリサーチャーとお客様との情報交流の場となります。業界内部で切磋琢磨され、レベルがさらに向上するという好循環が生まれます。是非そのようなカンファレンスを目指していきたいと思います。

最後に、皆様にもうひとつ重要なお願いをさせていただきたいと思います。それは協会の財政基盤の安定化へのご支援です。実は本日のカンファレンスは会員社有志に協賛金を募ることによって開催が可能になりました。現在のいびつな財政基盤は志の高さと裏腹に早晩、協会活動の停滞につながると認識しております。財政基盤の安定化と優良なコンテンツの発信は二ワトリとタマゴの関係にあり、いい循環が始まれば 2 つのことを同時に達成できます。しかしながら今は「先立つもの」が必要だと認識しております。まず正会員社の会費体系の見直しを行います。また協会には賛助会員制度がありますが、クライアントの皆様にはぜひ、パートナーとして賛助会員に加わっていただきますようお願い申し上げます。会員の皆様にはそれに見合うメリットを感じていただける協会活動を実現することが私の役割であると理解しております。

「これまでの 30 年」への感謝と同時に、「これからの 30 年」への新たな決意を表明させていただきました。JMRA に対するご指導、ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。